

「国際協力のための姿勢保持」 研修パッケージの開発および実証試験

一般社団法人 日本車椅子シーティング協会
〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-15 三電舎ビル 2F

助成事業の概要

2021.4 タイ国・マヒドン大学の理学療法士へ姿勢保持機器(ゲイトトレーナー 1台)を送付し、SNSを通して組み立て・フィッティング・使い方を指導。

2021.5 タイ国・マヒドン大学の理学療法士へ姿勢保持機器(座位保持椅子2脚、障害児用バギー型車椅子1台)を送付し、SNSを通して組み立て・フィッティング・使い方を指導。

2021.7 タイ国の理学療法士約70名に対して、木下義博講師(理学療法士、こぐま学園、福岡)による臥位保持に関するウェビナーを開催。

2021.8 タイ国・マヒドン大学の理学療法士へ姿勢保持機器(座位保持椅子1脚)を送付し、SNSを通して組み立て・フィッティング・使い方を指導。

2021.10 タイ国・マヒドン大学の理学療法士へ姿勢保持機器(車椅子1台)を送付し、SNSを通して組み立て・フィッティング・使い方を指導。

2022.1 「国際協力のための姿勢保持」教習キット作成に向けた会合をタイで予定していたが、COVID-19感染状況悪化のため断念。

2022.3 タイ国の協力者へ教習キット素材探しと日本への発送を依頼。佐賀県鳥栖市にて専門家5名と教材作成会議を開催して教材の仕様および内容を検討。またそれを基に草稿を執筆。

事業の成果

今年度もコロナ禍に追われ、絶えず事業日程の変

更を迫られる中で最善を尽くす1年となった。

成果1：中古姿勢保持機器を使った姿勢保持技術指導

タイ側ではグループでの対面講習が難しく、協力者の大学もコロナ対応に追われたため、各種姿勢保持機器6台を送付し、現地の理学療法士に対して個別ユーザーに対する組み立て・フィッティング・使い方の技術指導をLINEなどのSNSを通して実施した。それにより、6名のユーザーにこれまで取れなかった座位での日常生活活動や、歩行あるいは車椅子による移動が可能になった。また現地の理学療法士が姿勢保持機器の取り扱いやフィッティングを学んだ。

成果2：ウェビナーによる臥位保持講習

タイ側からの強い要望により、臥位の姿勢保持に関する講習をタイ国立マヒドン大学理学療法学部のウェビナーを通して実施した。木下義博氏(理学療法士、こぐま学園、福岡)が講師を務め、初回ということで臥位保持の基本的な考え方、実施方法、注意点などに関する講義形式をとった。臥位保持に関しては日本にもタイにもまとまった資料は少ないため、タイ側からは極めて好評であった。また日本側にとっても、今後海外での講習で活用できる資料をつくることのできた。

成果3：「国際協力のための姿勢保持」研修パッケージ開発

本パッケージ(タイ側からの命名では「ASAP-PTMU 座位保持教習パッケージ」)は、日本側で準備した草稿をタイ側専門家とのミーティングで検討する予定であったが、タイでのCOVID-19感染状況悪化のため断念せざるを得なくなり、代わりにまず日本側

専門家（理学療法士、シーティングエンジニア、リハビリ工学士）による教材制作会議を開催し、教習内容と教材仕様を練り上げた。それに従って教習員用指導書、各種フォームおよび確認表、講義用プレゼンテーションの草稿を作成した。

■ 成果の広報・公表

成果 1 については、現地の理学療法士など姿勢保持の関係者のあいだで、SNS 等を通じて情報の共有が図られた。

成果 2 については、マヒドン大学を通じてタイ全国の理学療法関係者に広報・公開された。

成果 3 についてはまだ草稿の段階であるが現在英語訳を進めており、マヒドン大学との検討・修正・タイ語訳を経てタイでの姿勢保持研修教材として公表し、また英語版を他の国々にも紹介する予定である。

■ 今後の展開

成果 1：これまでに、また今回送付した姿勢保持装置についてはユーザーへのフォローアップおよび現地専門家とのカンファレンスを進め、よりよい適合と活用、姿勢保持技能の向上を図って行く。

成果 2：臥位保持講習は、第 2 弾としてより実際的な、姿勢評価・機器の処方・フィッティングのデモをウェビナーあるいは対面講習として開催し、それを通して教習パッケージとしてまとめ、今後の海外での教習教材として活用して行く予定である。

成果 3：教材の英訳が完成しだいマヒドン大学側との内容検討・パイロット講習会開催を進める。